

第 31 回 日本心身健康科学会学術集会

抄録集

メインテーマ

『未来を拓く知恵～前進する心身健康科学～』

会期：2020年9月12日（土）

会場：オンライン Web 会議システム（zoom）



日本心身健康科学会

The Japan Society of Health Sciences of Mind and Body

- 参加費

事前参加申込（早期；8月20日まで）	3,000円
事前参加申込（後期；9月9日まで）	5,000円

- 大会参加者へのお願い

1. 発表される方へ

- (1) 発表方法は、Power Point を使用し、zoom 内の「共有」でプレゼンテーションをします。
- (2) 発表用データは、9/9（水）正午までに学会事務局宛の E-mail にてご提出ください。
- (3) 発表用スライド枚数に制限はありませんが、発表時間に見合うものとしてください。
- (4) 動画ファイルを使用される方も、zoom 内の「共有」で提示してください。

2. 一般口演発表の先生方へ

発表時間は、発表 7分・質疑応答 8分の計 15分間です。発表中、6分経過時（発表終了1分前）、7分経過時（発表終了）、15分経過時（演者交代）、それぞれお知らせします。発表時間は厳守してください。

3. ご質問される方へ

ご質問される方は、zoom のチャット機能を利用し、全員に対して「質問」と書き込みをして質問がある旨の意思表示をしてください。座長の許可を得た後、zoom のミュートを解除し、所属と氏名を述べてからご発言ください。万一チャットの機能を活用できない場合は、ミュートを外し質問がある旨発言し、座長の許可を得た後にご質問ください。

なお、質疑応答の時間は限られておりますので、要点のみを簡潔にご質問ください。また、発表時間超過防止の都合上、座長より発言の許可を得られない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

第 31 回 日本心身健康科学会 学術集会
プログラム

2020 年 9 月 12 日 (土)
オンライン Web 会議システム (Zoom)

【午前の部】

9 : 00	～		zoom 開場 (接続確認ができます)
10 : 00	～	10 : 15	開会挨拶
10 : 20	～	11 : 50	教育講演
11 : 50	～	12 : 00	休憩
12 : 00	～	12 : 30	総会
12 : 30	～	13 : 30	昼休憩

【午後の部】

13 : 30	～	14 : 30	一般口演 (前半)
14 : 30	～	14 : 45	休憩
14 : 45	～	15 : 30	一般口演 (後半)
15 : 40	～	16 : 00	閉会挨拶

1. 開会挨拶

(10:00～10:15)

2. 教育講演

(10:20～11:50)

座長：庄子 和夫（人間総合科学大学）

心身健康科学の将来

尾形隆夫 博士（心身健康科学） 山野美容芸術短期大学特任教授
青山学院大学ジェロントロジー研究所客員研究員
静岡医療科学専門学校医学検査学科

（休憩）

3. 総会

(12:00～12:30)

（昼休憩）

4. 一般口演（発表7分，質疑応答8分）

(13:30～14:30)

第1セッション（13:30～14:30）

座長：吉田浩子（人間総合科学大学）、石川和江（大手前栄養学院専門学校）

13:30～13:45

演題1：楽観・悲観性が作業予測に及ぼす影響に関する文献研究

○山田 眞子¹⁾，鍵谷 方子²⁾，矢島 孔明²⁾，久住 武²⁾

- 1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科
- 2) 人間総合科学大学大学院

13:45～14:00

演題2：職業性ストレスに対する自己認知と生理的反応の相違に関する研究

○四方 典裕¹⁾，吉田 浩子²⁾，藤原 宏子²⁾

- 1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 心身健康科学専攻
- 2) 人間総合科学大学大学院

14:00～14:15

演題3：メンタルローテーション能力に対する足底知覚トレーニングの効果

○柴 ひとみ^{1,2)}，鍵谷 方子³⁾，鈴木 はる江³⁾

- 1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科
- 2) 群馬医療福祉大学リハビリテーション学部
- 3) 人間総合科学大学大学院

14:15～14:30

演題 4：乳児との触れ合いによる心身への影響と関連要因の検討

○濱園 環¹⁾, 庄子 和夫¹⁾, 中山 和久¹⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

(休憩)

第2セッション (14:45～15:30)

座長：吉田浩子 (人間総合科学大学)、石川和江 (大手前栄養学院専門学校)

14:45～15:00

演題 5：瞑想がテロメア長に及ぼす影響ならびに幸福感との関連

○佐藤 洋^{1,2)}, 庄子 和夫³⁾, 小岩 信義³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) 独立行政法人国立病院機構東埼玉病院 3) 人間総合科学大学大学院

15:00～15:15

演題 6：乳児の声に対する精神的反応と生理的反応の関連性と個人特性の影響

○山田万希子^{1,2)}, 鍵谷方子³⁾, 久住武³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) 城西国際大学大学看護学部 3) 人間総合科学大学大学院

15:15～15:30

演題 7：触圧刺激時の心拍数の変動と自律神経機能・主観的健康感の関連

○川崎 晃子¹⁾, 鍵谷 方子²⁾, 矢島 孔明²⁾, 久住 武²⁾

1) 人間総合科学大学大学院人間総合科学研究科 2) 人間総合科学大学大学院

5. 閉会挨拶

(15 : 40～16 : 00)

目 次

教育講演	1
心身健康科学の将来 尾形 隆夫	2
一般口演	3
楽観・悲観性が作業予測に及ぼす影響に関する文献研究 山田 眞子 他 【博士学位申請】	4
職業性ストレスに対する自己認知と生理的反応の相違に関する研究 四方 典裕 他 【博士学位申請】	5
メンタルローテーション能力に対する足底知覚トレーニングの効果 柴 ひとみ 他 【博士学位申請】	6
乳児との触れ合いによる心身への影響と関連要因の検討 濱園 環 他 【博士学位申請】	7
瞑想がテロメア長に及ぼす影響ならびに幸福感との関連 佐藤 洋 他 【博士学位申請】	8
乳児の声に対する精神的反応と生理的反応の関連性と個人特性の影響 山田万希子 他 【博士学位申請】	9
触圧刺激時の心拍数の変動と自律神経機能・主観的健康感の関連 川崎 晃子 他	10

教育講演

抄録

心身健康科学の将来

尾形隆夫

博士（心身健康科学）

山野美容芸術短期大学特任教授

青山学院大学ジェロントロジー研究所客員研究員

静岡医療科学専門学校校医学検査学科

私は現在、「美齢学・ジェロントロジー」の普及、研究を行っています。人間総合科学大学大学院で勉強したことが大変役に立っています。学位論文は「女性高齢者における皮膚角質層水分量と主観的健康感に及ぼす酸化ストレスの影響—尿中バイオピリンを用いた検討—」でした。酸化ストレスに関しては、多くの研究がなされていますが、尿中バイオピリン（以下：尿中 BPN）を用いた酸化ストレスと皮膚角質層水分量の関係、さらに酸化ストレスと主観的健康感の関係についての報告は当時ありませんでした。本研究では、性差の問題を回避するために対象者を女性とし、尿中 BPN 測定を行って酸化ストレスと皮膚角質層水分量との関係、および酸化ストレスと主観的健康感との関係を明らかにし、さらに高齢者と若年者のデータを比較することによって女性高齢者の特徴を明らかにすることを目的としました。

Gerontology(ジェロントロジー)とは、アメリカで発展した新しい学問です。日本では「高齢社会の人間学」「人口高齢化社会学」「老化防止高齢学」などさまざまな訳語が提起されていますが“Gerontology”を的確に表現するのは難しく、東京大学でも「ジェロントロジー」とそのまま使用しています。「心身ともに健康で、より良い高齢期を過ごすためにはどうすればいいのか」この普遍的なテーマについて以前から、医学・心理学・社会学・政治学・経済学・工学など個々の分野で研究されてきました。しかしながら、各分野の壁を越えて学際的な研究はなかなか進んでいません。例えば、高齢者の身体の健康を増進しようと考えた場合、細胞老化を防ぐといったバイオメディカルレベルで高齢者の身体を見ることも重要です。しかし、それだけではなく健康を維持するための健康施策も必要となります。さらに、健康運動に参加するだけの生活のゆとりという視点からは、生活保障という社会的施策も必要となります。安全な住居に住むことも、高齢者の心理を理解したアプローチも重要です。このように、健康増進問題を一つとっても、現実の高齢者を支えるには、個人レベルから社会レベルまで、複眼的な視点からの研究や正しいデータに基づいた実践が必要なのです。

今回の教育講演では、私の学位論文への取り組みや、現在行っていることをご紹介します。学位取得や研究の進展における一助になれば幸いです。

一般口演

抄録

楽観・悲観性が作業予測に及ぼす影響に関する文献研究

○山田 眞子¹⁾, 鍵谷 方子²⁾, 矢島 孔明²⁾, 久住 武²⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) 人間総合科学大学大学院

【目的】

人は何かをする時、ある程度の予測や目標を立てている。自分の行動がもたらす結果への予測に及ぼす個人特性の影響として楽観・悲観性に着目し、文献検討を行うことを目的とした。

【方法】

楽観性、悲観性、作業予測をキーワードに文献調査を行った。文献検索は、J-STAGE・CiNii 及び PubMed を用いた。

【結果】

楽観性はポジティブな結果を期待する傾向、悲観性はネガティブな結果を予期する傾向と定義される (Scheier&Carver, 1985)。上田 (2012) は、緊急事態における行動特性には個人差があり、楽観性の高低差において、緊急事態における作業方略に違いがある。課題に対する所要時間は楽観性低群でより長いと述べている。Charles (2010) は、楽観性の高い者は目標に向けてエネルギーに取組むことが述べられているが、外山(2017) は、楽観性の高い者は大きな目標をかなえるためには他の目標を抑制する傾向があると報告している。いとう (2015) は、楽観性の高い者は重要な目標に関しては時間と労力を集中させる一方で些細な目標には適度に取り組むため、その作業が重要であるかそうでないかによって、予測値が左右されることが考えられると述べている。作業予測に関連して悲観性に言及している先行研究が少ない。楽観性と悲観性を一次元で捉えるか、二次元で捉えるかには未だ議論が残るが、近年後者が着目されている。

【考察】

日下 (2015) が楽観性・悲観性は精神的健康を予測する要因であると述べていることより、作業予測に関する影響をふまえて検討することは心身の健康に通ずるものであり今後の実験研究の意義が見いだせると考える。

【結論】

楽観性・悲観性の両者が作業予測に及ぼす影響の解明は不十分である。

倫理審査申請未

キーワード：作業予測, 楽観性, 悲観性, 心身健康科学

職業性ストレスに対する自己認知と生理的反応の相違に関する研究

○四方 典裕¹⁾, 吉田 浩子²⁾, 藤原 宏子²⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 心身健康科学専攻

2) 人間総合科学大学大学院

【目的】

本研究は職業性ストレス低減に資する新たな知見を得るために、医療従事者の勤務中のストレスに対する自己認知と心拍数及び諸要因の関連を実証的に示すことを目的とした。

【方法】

2019年11月に調査協力同意が得られたA病院に勤務する基礎心疾患のない新人もしくは非管理職の看護師（25名）、セラピスト（7名）、医師（10名）、臨床検査技師（3名）を対象に調査を実施した。任意の1日の出勤時から退勤時までホルター心電計を装着し、10分毎の自覚する緊張度と運動負荷量の評定（5件法）と業務内容の記載、退勤前に属性、職業性ストレス調査票等に関する自記式質問紙への回答を求めた。

【結果】

対象者（N=45）の平均年齢は26.6歳、40%が男性、80%が職歴3年目以内だった。各対象者の10分毎の平均心拍数の最大・最小値と、その時の自覚的緊張度および運動負荷量には有意な相関はなく、自覚的緊張度と職業性ストレス調査票の疲労感、抑鬱感、不安感の得点および自覚的運動負荷量と同身体愁訴の得点に有意な相関がみられた（ $p<0.05$ ）。临床上頻脈とみなされる心拍数100回/分以上が観察された群（A群 n=15）と観察されなかった群（B群 n=30）を比較したところ、A群はB群に比して職業性ストレス調査票のストレス反応得点合計の平均値が有意に高かった（平均値 A群=7.46±1.58 B群=5.62±1.29, $t=-3.81$ $p<0.05$ ）。

【考察】

勤務中に自覚する緊張度、運動負荷量は実際の心拍数を必ずしも反映せず、临床上頻脈とみなされる心拍数が観察された群の職業性ストレス調査票のストレス反応得点が有意に高かったことから、当該得点が高い者の中には、若年者であっても生理学的な機能を確認する必要がある者が含まれる可能性が示唆された。

【結論】

医療従事者の職業性ストレスの把握には、調査票と生理指標の双方を活用することが有効と言える。

倫理審査申請承認機関：人間総合科学大学（R第601号）、京都民医連中央病院（第109号）

キーワード：職業性ストレス、心拍数、自己認知、フォーカシング的態度

メンタルローテーション能力に対する足底知覚トレーニングの効果

○柴 ひとみ^{1,2)}, 鍵谷 方子³⁾, 鈴木 はる江³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) 群馬医療福祉大学リハビリテーション学部 3) 人間総合科学大学大学院

【目的】

本研究は、身体認知に重要な役割をもつ体性感覚とそれによるアクティブタッチに着目し、記憶情報に基づき弁別を行う課題のトレーニング（足底知覚トレーニング）が、認知的情報処理に関するメンタルローテーション（MR）能力の向上に繋がる可能性を検討することを目的とした。

【方法】

健常男女 17 名（平均 20.7±0.5 歳，トレーニング群 9 名，対照群 8 名）を対象とした。トレーニング群は、足底知覚トレーニングとして座位で異なる硬度のスポンジマット 5 種類の硬さを弁別する課題を，対照群は座位で一定硬度のスポンジマットに足をのせることを 10 日間実施した。トレーニング前後でマット硬度弁別課題と MR 課題，および，二点識別覚，位置覚，振動覚，開閉眼立位バランス，注意機能（TMT-A/B）の検査を実施した。

【結果】

トレーニング期間後，トレーニング群では対照群に比べ，マット硬度弁別課題において全問正答者数が有意に多かった。MR 課題の反応時間は，トレーニング群でのみ有意に減少した。トレーニング群では，二点識別覚の向上が認められたが，重心動揺に変化は見られなかった。数字と平仮名を交互に線で結ぶ TMT-B の成績が向上傾向であった。

【考察】

足底知覚トレーニングによる active touch は，パチニ小体やマイスナー小体等のメカノレセプターからの情報処理能力を高め，比較照合を生じさせることにより，active touch により転換性注意力の向上が図られ，MR 課題の成績が向上したのではないかと考える。

【結論】

足底知覚トレーニングは，MR 能力に影響を与えることが示唆された。

倫理審査申請承認機関：人間総合科学大学（第 627 号），群馬医療福祉大学（第 19-A07 号）

キーワード：心身健康科学，メンタルローテーション，注意機能，二点識別覚，足底知覚トレーニング

乳児との触れ合いによる心身への影響と関連要因の検討

○濱園 環¹⁾, 庄子 和夫¹⁾, 中山 和久¹⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

【目的】

乳児との触れ合いによる心身への影響と関連要因について,大学生を対象として検討する.

【方法】

- 1.触れ合いの定義: 乳児を抱っこする状態とする.
- 2.対象: 出産・育児経験・小児看護学実習経験の無い看護大学生男女4名.
- 3.研究デザイン:4名の前後比較とし,以下①~⑥を1クールとするスケジュールを1週間空けて2回実施.
①ベビー人形で抱っこ練習3分,②安静3分,③唾液採取・質問紙回答15分,④6カ月児を抱っこ実施3分,⑤安静3分,⑥唾液採取・質問紙回答10分
4. 評価方法
 - (1) 唾液中オキシトシン濃度と唾液中コルチゾール濃度(いずれも競合 ELISA 法)
 - (2)対児感情評定尺度28項目(花沢,1992)の接近感情得点と回避感情得点の各々14項目の得点
 - (3)関連要因: ①乳児との相互作用(アイコンタクト・声掛け,②乳児の様子(笑う・ぐずる・泣く・暴れる・眠る)とする.

【結果】1回目・2回目抱っこの前後変化

- (1)唾液中オキシトシン濃度と接近感情得点
唾液中オキシトシン濃度が1回目は1名上昇,1名変化無く,2名下降,2回目は全員上昇した.接近感情得点は1回目が1名下降,3名変化無く,2回目に2名上昇,2名下降した.
- (2)唾液中コルチゾール濃度と回避感情得点
唾液中コルチゾール濃度は1回目に1名上昇,3名下降,2回目は1名変化無く,3名下降した.回避感情得点は1回目に2名上昇,2名下降,2回目は1名上昇,1名変化無く,2名下降した.

【考察】

抱っこ2回目に対象者全員の唾液中オキシトシン濃度が上昇し,唾液中コルチゾール濃度が1名変化無かったが,3名下降したのは,乳児との“アイコンタクト”と,乳児の様子“笑う・ぐずる・泣く・暴れる”が関連要因として影響したからと考えられる.

【結論】

乳児との触れ合いを重ねると,大学生の乳児への親愛感情が高まる可能性があり,今後対象数を増やして検討していく.

倫理審査申請承認機関: 神奈川工科大学(承認番号:20181218-02) ※本研究は予備実験である.

キーワード: 心身健康科学, 乳児, 触れ合い, 親愛感情, 大学生

瞑想がテロメア長に及ぼす影響ならびに幸福感との関連

○佐藤 洋^{1,2)}, 庄子 和夫³⁾, 小岩 信義³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) 独立行政法人国立病院機構東埼玉病院 3) 人間総合科学大学大学院

【目的】

マインドフルネス瞑想（以下、MM）とは、呼吸などの内受容感覚に意識を集中させることで、今現在に気付きをもたらす方法である。一般成人に対する8週間のMMに基づくプログラムの介入によって、統制群と比較した群は有意に幸福感が向上することが報告されている。またMMは、不安やストレスの軽減だけではなくテロメラーゼ酵素の活性化についても報告されている。テロメラーゼ酵素の活性化は、テロメアの伸長に関与することで知られる。そこで本研究では、MMの実践に伴うテロメアの長短と主観的幸福感およびストレス反応の推移に着目し、心と身体の有機的関連性について検証する。

【方法】

健康な成人40名を対象にMMの介入効果を検討する。MMは、アプリケーションを用いて1日1回5分を目安に90日間実施する。唾液試料は、唾液中のアミラーゼ活性を測定することでストレスの推移を測定する。口腔粘膜細胞は、遺伝子発現解析によりDNAの抽出とテロメア長の測定比較を行う。質問紙調査では、WHO SUBIとSRS-18を用いて幸福感とストレスを測定する。

【結果】

MMが、幸福感の向上を示唆する先行研究やテロメア長の伸長に関わる酵素の活性化を示唆する先行研究の知見に基づけば、MMを介入方法として採用する本研究においても、同様に主観的な幸福感の向上やストレスの軽減およびテロメアの伸長あるいは短縮遅延が期待される。

【考察】

MMによる今この瞬間への気付きは、ストレスの軽減と主観的な幸福感の向上につながると思われる。MMによってテロメラーゼ酵素が活性化されることにより、細胞組織の再生が頻繁に行われる口腔粘膜細胞におけるテロメアの伸長に影響を及ぼすと考えられる。

【結論】

MMを所定の方法で実施するとストレスの軽減と主観的幸福感の向上に効果があり、これらの効果がMMと相乗的に影響し合うことでテロメラーゼ酵素の活性化につながりテロメアが伸長する。テロメア伸長により、細胞老化の抑制と健康寿命の延長への寄与が示唆される。

倫理審査申請承認機関：人間総合科学大学（第608号）

キーワード：マインドフルネス瞑想、テロメア、主観的幸福感、ストレス軽減、ポリメラーゼ連鎖反応

乳児の声に対する精神的反応と生理的反応の関連性と個人特性の影響

○山田万希子^{1,2)}、鍵谷方子³⁾、久住武³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) 城西国際大学大学看護学部 3) 人間総合科学大学大学院

【目的】

育児に対する受け止め方の違いや個人的な特性・環境が育児に影響を及ぼしているかを検証し、育児に参加しやすい効果的な保健指導の基礎データとする。また育児に直接関わらない青年期にあたる被験者を対象に調査することによって、現代の若者の乳児に対する思いの傾向を知ることを目的とする。

【方法】

18歳以上の成人女性と成人男性を対象とした。個人情報アンケート（性別、年齢、家族構成、乳児に触れる機会の有無、親子の関係性）、ストレス耐性尺度、感情調査を得点化する。乳児の泣き声と笑い声を各3分間聴取する。対象を2群に分け、クロスオーバー試験にて実施。聴取時の生理指標を分析、統計処理を行った。

【結果】

対象者は男性7名、女性11名。生理指標の血流において、分散分析の結果、安静時（3回）・泣き声・笑い声で有意差が認められた。性別、家族構成、乳児に触れる機会の有無、親子の関係性、ストレス耐性において、生理指標との関連性は認められなかった。ストレス耐性を高群と低群でみた感情アンケートの関連性では、高群において泣き声の肯定感情と笑い声の肯定感情で有意差が認められた。

【考察】

成人の男性・女性は乳児の泣き声に皮膚血流においてストレスを感じている指標が得られた。笑い声に対してもストレスを感じていると考えられる生理指標がみられる事例があった。ストレス耐性が高い群は泣き声も笑い声も肯定的にとらえている。ストレス耐性によって、受け止めが異なっていることが考えられたが、生理指標において有意差を確認することはできなかった。

【結論】

1. 成人男性・女性は乳児の泣き声に対して、血流量においてストレス反応を認めた。2. ストレス耐性の高群と低群では高群において、泣き声と笑い声を肯定的にとらえることが認められた。

倫理審査申請承認機関：人間総合科学大学（第581号）

キーワード：心身健康科学、乳児の声、精神的反応、生理的反応、育児参加

触圧刺激時の心拍数の変動と自律神経機能・主観的健康感の関連

○川崎 晃子¹⁾, 鍵谷 方子²⁾, 矢島 孔明²⁾, 久住 武²⁾

1)元人間総合科学大学大学院人間総合科学研究科 2)人間総合科学大学院

【目的】

本研究は触圧刺激（鋲鍼）による心拍数の変動と自律神経機能の状態および健康関連 QOL との関連を調べることを目的とした。

【方法】

健常学生男女 24 名を対象とし、実験 1 で左前額眉毛中心、実験 2 で左前腕前面中央へ刺激を行う A 群と、実験 1, 2 の順を入れ替えた B 群に無作為に割り付けクロスオーバー試験にて実験を行った。刺激にはバネ式鋲鍼（直径 2.5mm）を使用し、強度 150g、刺激頻度 0.5Hz で触圧刺激を 2 分間行い心拍数の変化を観察した。健康関連 QOL 尺度および起立試験による自律神経機能評価にて対象者の心身の状態を評価した。

【結果】

前額部、前腕部への断続的な触圧刺激中に心拍数はともに有意に減少し、その減少の程度は前額部の方が大きい傾向にあった。刺激中と刺激後の HF 成分の変化の程度は、前額部と前腕部で異なった。前額部への刺激による心拍数減少反応の程度は、起立試験から算出された副交感神経関与度とやや弱い相関傾向を認めた。副交感神経関与度と SF-8 の精神的サマリースコアは負の相関傾向が認められ、身体的サマリースコアとは相関は認められなかった。

【考察】

触圧刺激による心拍数減少反応は、刺激部位によって程度が異なり、自律神経反応に違いがあることが考えられた。また、前額部刺激による心拍数減少反応は、副交感神経機能の状態により影響を受けること、副交感神経機能は精神的健康に影響を及ぼしていることが考えられた。

【結論】

本研究より、前額部と前腕部への断続的な触圧刺激は、前額部刺激の方が心拍数減少の程度は大きい傾向にあることがわかった。この反応は自律神経機能の影響を受けること、また、精神的健康にも影響する可能性が示唆された。

倫理審査申請承認機関：人間総合科学大学（第 598 号）

キーワード：心身健康科学，触圧刺激，体性－自律神経反射，SF-8

—MEMO—



日本心身健康科学会 事務局
人間総合科学大学 人間総合科学 心身健康科学研究所内
〒339-8539 埼玉県さいたま市岩槻区馬込 1288
TEL : 048-749-6111 FAX : 048-749-6110
E-Mail : jshas@human.ac.jp URL : <https://jshas.human.ac.jp>